

中国の金融システム

日本銀行 福本智之

中国の金融システム改革は、1990年代後半以降、国有商業銀行の巨額の不良債権の処理と経営メカニズム改善に重点を置いて進められてきた。資本注入と不良債権分離、上場を通じて、国有商業銀行の改革は相応に進展した。

もともと、2008年の世界金融危機後、中国政府が景気刺激のため大幅な金融緩和を行った結果、信用が急拡大、特に、シャドーバンキング部門の膨張が金融システムにもたらすリスクが懸念されるに至った。

中国政府は、これに対し、金融監督・規制の強化による「デレバレッジ」政策を推進。同政策は、レバレッジ抑制の面で一定の成果を挙げつつある。ただし、民営企業の資金調達を困難化させ、景気を減速させる要因ともなっている。

また、資本フローに関しては、中国の景気が減速した2015年から2016年にかけては、人民元レートの先安期待の高まりから、資本流失が進み、為替介入の結果外貨準備高が減少、これが金融システムにもたらす影響が懸念された局面があった。

報告では、中国金融システムの安定性とリスクにつき、特に、

- ① 近年の金融監督・規制強化の内容とその効果
- ② シャドーバンキングを含む国内金融システムの安定性とリスク
- ③ 資本フローが金融システムにもたらすリスク

に焦点を当てて、論じる。